

都市再生整備計画 事後評価シート

みつかわ地区

平成30年2月

静岡県袋井市

都道府県名	静岡県	市町村名	袋井市	地区名	みつかわ地区			面積	307ha
交付期間	平成25年度～29年度	事後評価実施時期	平成29年度	交付対象事業費	1539百万円	国費率	0.400		

1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名											
	基幹事業	提案事業	道路:市道大谷幕ヶ谷西山線整備事業、公園:みつかわ夢の丘公園整備事業、三川地区コミュニティ広場整備事業、地域生活基盤施設:地域案内看板設置事業											
			事業名				削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
	当初計画から削除した事業	提案事業	なし ・地産地消推進事業 ・地域資源の発掘事業				・公園内の駐車場等を活用することにより、地域活性化や地域交流等の事業の目的が果たされるため、取りやめる。 ・市の協働まちづくり事業等により、自然環境整備等の事業の目的が果たされるため、取りやめる。			影響なし				
	新たに追加した事業	提案事業	なし											
交付期間の変更		当初	平成25年度～29年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		—							
		変更	—											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み				
	指標1	都市景観の現状に対する不満足度	%	24.0	H25	22.0	H29		29.0	×	あり	●	みつかわ夢の丘公園などの事業が完成前であったことから、完成後のイメージを十分に周知することができなかったため、都市景観の現状に対する不満足度改善という目標は達成できなかった。平成29年度末には、地区の景観イメージを高める施設整備が完了するため、公園の整備内容や利活用方策等を広報やホームページ等で周知していくことで、1年以内に目標を達成できると考える。	H31年3月
											なし			
	指標2	河川や水辺に対する印象度数	%	17.5	H25	15.8	H29		12.0	○	あり		中沢川の河川改修により、地域の治水安全度や水辺の景観が向上したとともに、河川や水辺の清掃・管理がしやすくなったことから、河川や水辺に対する愛着が高まり、アンケートで水辺の印象(景観)が悪いと回答した割合が改善したと考えられる。	
											なし			
	指標3	まちづくりワークショップの参加人数	人	29	H25	35	H29		51	○	あり		公園の整備内容や使い方の検討、里山の保護活動等について、地元住民が継続して活動してきた結果、おおや里山の会が組織され、組織人数を増加させることができた。	
											なし			
	3)その他の数値指標 (当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
その他の数値指標			基準年度		目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み					
4)定性的な効果発現状況	・三川地区では、平成19年度から公園整備等について検討するためのワークショップが継続的に行われており、長期に渡って多くの自治会員が行政との協働による地域づくりの活動に参加している。 ・このような活動により、活動組織体制の素地が築かれていたため、継続的に開催されたワークショップを契機におおや里山の会が組織され、地元住民が公園の維持管理活動に携わる基盤を作ることができた。													
5)実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	なし			都市再生整備計画に記載し、実施できた				なし					
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した											
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった											
	住民参加プロセス	住民参加のまちづくりワークショップ	都市再生整備計画に記載し、実施できた				●		まちづくりワークショップが実施されたことにより、さらに地域への愛着心が高まり、おおや里山の会が組織された。これにより、公園の維持管理に関する協働の体制が構築されたため、今後のまちづくり活動(環境美化や河川愛護、公園の利活用・運営管理等)に活かしていく。					
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した											
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった											
持続的なまちづくり体制の構築	住民参加のまちづくりワークショップの継続	都市再生整備計画に記載し、実施できた				●		おおや里山の会は、植樹活動を中心に活動している。今後はおおや里山の会を中心に、花の会などの協力も得て、公園の花木の維持管理なども協働で担う体制づくりを目指す。						
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した												
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった												

様式2-2 地区の概要

[illegible]

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

~~添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測~~

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

添付様式3-① モニタリングの実施状況

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

~~添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因~~

※数値目標を達成していなくても、1年以内の達成見込み「あり」の場合は、
添付様式4-3を作成しなくてもよい。添付様式4-2のみ作成

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

添付様式5-② まちの課題の変化

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

~~添付様式9 有識者からの意見聴取~~

(1) 成果の評価

添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他		●			

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等 への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道大谷幕ヶ谷西山線整備事業	275.0	W=9m 拡幅整備:L=980m	230.0	W=9m 拡幅整備:L=980m	事業費の精算及び事業名称の変更	影響なし	●	
公園	みつかわ夢の丘公園整備事業	827.0	24.8ha	931.4	24.8ha	事業費の増額及び事業名称の変更	影響なし		●
	三川地区コミュニティ広場整備事業	270.0	1.61ha	284.3	1.61ha	事業費の増額及び事業名称の変更	影響なし	●	
地域生活基盤 施設	地域案内看板設置事業	5.0	地域案内看板 20箇所	4.3	地域案内看板 2箇所	事業量の縮小及び事業費の減額	影響なし		●

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等 への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	準用河川中沢川改修事業	100	L= 250m	80	L= 250m	事業費の減額及び年次計画の変更	影響なし		●
	ウォーキングコース整備事業	5	危険箇所の改修、 案内板等の設置	5	危険箇所の改修、 案内板等の設置	なし	－		●
	地産地消促進事業	12	(仮称)公園内に直 売所を建設	0	－	事業の削除	影響なし		
	地域資源の発掘調査事業	7	地域資源調査	0	－	事業の削除	影響なし		
事業活用調査	事業効果分析調査	3	事後評価	3	事後評価	なし	－		●
まちづくり 活動推進事業	みつかわまちづくりワークショップ	3	ワークショップの開催	1	ワークショップの開催	事業費の減額及び年次計画の変更	影響なし	●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況 及び 所見	備考
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画		
市道大谷幕ヶ谷線改築事業		袋井市三川地内	600	600	平成25年度～平成29年度	平成25年度～	基幹事業や提案 事業を優先して 進めたため、進捗 に遅れが出ている。 今後、計画的に 整備を進めていく。	

添付様式2ー① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
															あり	なし
指標1	都市景観の現状に対する 不満足度	%	【平成29年6月】に、都市景観の現 状に対する不満足度を問うアン ケートを行い、三川地区内のデータ で集計する。	—	—	24.0	H25	22.0	H29	モニタリング			モニタリング		●	
										事後評価	確定		29.0	事後評価	×	
指標2	河川や水辺に対する印象 度数	%	【平成29年6月】に、河川や水辺に 対する印象度を問うアンケートを 行い、三川地区内のデータで集計 する。	—	—	17.5	H25	15.8	H29	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定		12.0	事後評価	○	
指標3	まちづくりワークショップ の参加人数	人	【平成29年5～8月】の間に実施さ れた、みつかわ夢の丘公園に係る 活動(墓地公園対策協議会(現:み つかわ夢の丘公園対策協議会)、 おおや里山の会)の組織人数を計 測する。	—	—	29	H25	35	H29	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定		51	事後評価	○	

指 標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	みつかわ夢の丘公園などの事業が完成前であったことから、完成後のイメージを十分に周知することができなかったため、都市景観の現状に対する不満足度改善という目標は達成できなかった。平成29年度末には、地区の景観イメージを高める施設整備が完了するため、公園の整備内容や利活用方策等を広報やホームページ等で周知していくことで、1年以内に目標を達成できると考える。	問題点: 指標計測時期が、みつかわ夢の丘公園及びアクセス道路の完成前だったこと 課題: みつかわ夢の丘公園を十分にPRできていなかったこと
指標2	中沢川の河川改修により、地域の治水安全度や水辺の景観が向上したとともに、河川や水辺の清掃・管理がしやすくなったことから、河川や水辺に対する愛着が高まり、アンケートで水辺の印象(景観)が悪いと回答した割合が改善したと考えられる。	
指標3	公園の整備内容や使い方の検討、里山の保護活動等について、地元住民が継続して活動してきた結果、おおや里山の会が組織され、組織人数を増加させることができた。	

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。
※2 目標達成度の記入方法
○: 評価値が目標値を上回った場合
△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合
×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2ー参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・三川地区では、平成19年度から公園整備等について検討するためのワークショップが継続的に行われており、長期に渡って多くの自治会員が行政との協働による地域づくりの活動に参加している。 ・このような活動により、活動組織体制の素地が築かれていたため、継続的に開催されたワークショップを契機におおや里山の会が組織され、地元住民が公園の維持管理活動に携わる基盤を作ることができた。
--

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	なし	なし

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
住民参加のまちづくりワークショップ	予定どおり実施した ● 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	【実施頻度】計22回（各年2～4回程度） 【実施時期】平成23年度～平成29年度 【実施結果】地域住民の代表など51人が参加し、公園を含む地域整備の内容や、公園整備後の使い方等に、地域の声を反映することができた。	まちづくりワークショップが実施されたことにより、さらに地域への愛着心が高まり、おおや里山の会が組織された。これにより、公園の維持管理に関する協働の体制が構築されたため、今後のまちづくり活動（環境美化や河川愛護、公園の利活用・運営管理等）に活かしていく。

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
住民参加のまちづくりワークショップの継続	予定どおり実施した ● 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	これまでに構築したまちづくり体制を基本に、体制の継続・発展を図ることを、ワークショップで呼びかけた。	墓地公園対策協議会（現：みつかわ夢の丘公園対策協議会）、おおや里山の会、三川地区の自治会活動等	おおや里山の会は、植樹活動を中心に活動している。今後はおおや里山の会を中心に、花の会などの協力も得て、公園の花木の維持管理なども協働で担う体制づくりを目指す。

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4－① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
みつかわ夢の丘公園整備推進委員会・幹事会	産業環境部 環境政策課	第1回目 平成29年 8月 2日 第2回目 平成29年10月16日	産業環境部 環境政策課

添付様式4－② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標3			
指 標 名		都市景観の現状に対する 不満足度		河川や水辺に対する印象度数		まちづくりワークショップの 参加人数			
種別	事業名・箇所名	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見		
基幹事業	【道路】市道大谷幕ヶ谷西山線整備事業	○	桜や紅葉が植栽され、里山に囲まれた美しい景観を持つ、みつかわ夢の丘公園が、地域の景観イメージ向上に寄与した。また、地域の交流の場・憩いの場となるコミュニティ広場や中沢川等も、その整備により、市北部におけるスポーツや交流の拠点整備や河川堤防沿いのウォーキングなど、人が活動する景観を生み出し、景観イメージ向上に寄与した。	—	中沢川の河川改修を実施することで、治水安全度が向上するとともに、堤防からの水辺景観が改善され、河川や水辺の印象度が高まったと考える。	—	公園整備計画の検討段階から、公園の利活用方策等を、地元とワークショップで検討してきた。このことにより、公園活動に参加する、おおや里山の会が組織化され、ワークショップの参加人数が増加した。		
	【公園】みつかわ夢の丘公園整備事業	◎		—		○			
	【公園】三川地区コミュニティ広場整備事業	◎		—		○			
	【地域生活基盤施設(情報板)】地域案内看板設置事業	◎		—		—			
提案事業	【地域創造支援事業】準用河川中沢川改修事業	○		◎		—			
	【地域創造支援事業】ウォーキングコース整備事業	○		—		○			
	【事業活用調査】事業効果分析調査	—		—		—			
	【まちづくり活動推進事業】みつかわまちづくりワークショップ	○		○		◎			
関連事業	【市道大谷幕ヶ谷線改築事業】	○		—		—			

※指標改善への貢献度
◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
—：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	都市景観の現状に対する不満足度の減少を図るため、パンフレットや広報及び市のホームページ等を利用し、公園の整備内容や利活用方策等を市内に広くPRする。また、公園を活用した感謝祭やイベントを開催し、地域交流の場としての周知を図る。	地域による河川の維持管理がしやすくなったため、今後も河川清掃活動を継続的にサポートし、中沢川を、地域に根付く大切な資源として維持・保全する。	協働まちづくり事業等を活用し、おおや里山の会を中心に、公園の維持管理を行政と協働で行う。	
-------	---	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5ー① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
みつかわ夢の丘公園整備推進委員会・幹事会	産業環境部 環境政策課	第1回目 平成29年 8月 2日 第2回目 平成29年10月16日	産業環境部 環境政策課

添付様式5ー② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
恵まれた自然を活用し、地域 住民の憩いの場となる都市公 園の整備	市民が集い憩える地域特性を生かした特色ある空間の整備 を目標として事業を推進したことにより、以下のように課題が 改善した。 ・三川地区コミュニティ広場が整備されたことにより、住民の 憩いの場が生まれた。 ・市道大谷幕ヶ谷西山線だけでなく、市道大谷幕ヶ谷線の整 備にも進めており、公園へのアクセス道路が拡幅され、公園 利用者の利便性が向上した。	・地域住民の憩いの場となるみつかわ夢の丘公園が完成前であった ことから、整備内容や利活用方法を十分に周知することができなかつ た。	・特になし
市内外からの交流人口増加 による地域活性化	農村地域の活性化と都市地域との交流を目標として事業を 推進したことにより、以下のように課題が改善した。 ・みつかわ夢の丘公園が整備されたことにより、住民だけで なく、市内外からの来訪者が活動できる場が生まれた。 ・今後、この場を活かし、様々な活動が生まれる場を提供す ることができた。 ・既に地元住民は、おおや里山の会を組織し、中高年の生き がいの創出と地域活性化を目的とした活動を始めている。	・特になし	
みつかわ夢の丘公園運営の ため、住民と行政との協働に よるまちづくりの推進	協働によるまちづくりの推進を目標として事業を推進したこと により、以下のように課題が改善した。 ・公園の整備内容や利活用方法は、計画段階から地元住民 を交えて検討した。 ・このことにより、地元が公園を自分たちの場として捉え、公 園を活動舞台とするおおや里山の会が組織された。 ・既に、公園進入路沿道への花木の植栽や、公園内花木の 維持管理などを協働で進めることとしている。	・特になし	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5ー③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	恵まれた自然環境を生かした潤いのある生活環境の維持	・公園を含む良好な生活環境を維持するため、利用者の清掃活動やルールづくりなど、ソフト面での取り組みを行う。 ・公園のイベントでの利用、日常的な利用を通じて、公園の利活用や運営に協力していただける公園サポーターを募る。	・公園愛護活動(清掃、施設点検、管理) ・公園等を利用したイベントの実施
	地域活性化のための取り組みの継続	・おおや里山の会への活動支援等により、地域の魅力を高めることや、活動参加者の生きがいづくり等、三川地区の地域活性化のための取組をサポートする。 ・また、公園を活動の舞台とし、交流人口増加を図るため、公園を使った魅力的なイベントの検討・実施を図る。	・市の協働まちづくり事業等の活用 ・公園を使ったウォーキングイベントや感謝祭の検討・実施
	住民と行政との協働によるまちづくりの継続	・おおや里山の会の活動や、公園で行われるイベント等を通じて、まちづくり活動に関心をもった人に対し、人材育成講座紹介、情報交換等を積極的に推進し、地域のまちづくりを先導する人材を育成する。これにより、住民と行政との協働によるまちづくりを更に推進する。	・市の協働まちづくり事業等の活用

B欄 改 善 策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	公園整備内容や利活用方法の更なる周知	・市のホームページ等で、公園整備については周知を行っている。 ・今後は、さらに、広報、パンフレット等の多様な媒体を活用し、公園の整備内容や利活用方法の周知を図る。	・市ホームページ、広報、パンフレット等を使った広報活動 ・公園を使ったイベントの検討・実施

- ・未達成の目標を達成するための改善策
- ・未解決の課題を解消するための改善策
- ・新たに発生した課題に対する改善策

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5ー③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4ー②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4ー③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5ー②)を再確認した。

添付様式5ー参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

添付様式5ー④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの可否に関わらず、添付様式2ー①、2ー②に記載した全ての指標について記入して下さい。
・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2ー①、2ー②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指 標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画				
			年度		年度							予定時期	計測方法	その他特記事項		
指標1	都市景観の現状に対する不満足度	%	24.0	H25	22.0	H29	確定		29.0	×	あり	●	→	H31年3月	【平成31年3月】に、自然や歴史文化などを活かした地域の都市景観の現状に対する不満足度を問うアンケート調査を行い、三川地区のデータを集計する。	みつかわ夢の丘公園以外の事業が平成30年3月に完了する。これらの事業効果を反映するため、アンケート調査を実施する。
							見込み	●			なし					
指標2	河川や水辺に対する印象度数	%	17.5	H25	15.8	H29	確定		12.0	○	あり		→	H31年3月	【平成31年3月】に、河川や水辺に対する印象度数を問うアンケートを行い、三川地区内のデータで集計する。	整備事業完了は平成30年3月であるが、河川やウォーキングコース整備の事業効果を反映するため、指標1のアンケートと併せて実施する。
							見込み	●			なし					
指標3	まちづくりワークショップの参加人数	人	29	H25	35	H29	確定		51	○	あり		→	H30年3月	【平成30年3月末】時点で、みつかわ夢の丘公園に係る活動（墓地公園対策協議会（現：みつかわ夢の丘公園対策協議会）、おおや里山の会、三川地区の花の会）の組織人数をまちづくりワークショップ参加人数として計測する。	整備事業完了が平成30年3月であるため、その後にはまちづくりワークショップの参加人数を計測し、確定値とする。
							見込み	●			なし					
指標4							確定				あり		→			
							見込み				なし					
その他の数値指標1							確定						→			
							見込み									
その他の数値指標2							確定						→			
							見込み									
その他の数値指標3							確定						→			
							見込み									



添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	公園計画検討段階から、地元を巻き込んでまちづくりワークショップを継続してきたことで、おおや里山の会が新たに組織され、活動への参加者を増加することができた。	事業が完成していない場合でも、指標の達成に向け、事業効果を住民にPRすることが望ましい。
	うまくいかなかった点	公園整備完了前に評価値を計測したため、指標1(都市景観の現状に対する不満足度)について正しく計測することができなかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	公園整備やまちづくりワークショップの継続等により、目標である自然環境を活かした生活環境づくりや協働によるまちづくりと整合性を保つことができた。	より目標・事業内容と直接関係のある数値目標の設定が望ましい。
	うまくいかなかった点	河川や水辺に対する印象度は、目標との関連性がわかりづらかった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	まちづくりワークショップは、地域住民の意向を事業に反映させることや合意形成に役立った。また、ワークショップの体制を、公園利活用や里山保護など、地域活動を行う団体へと継続・発展することができた。	住民参加や情報公開はまちづくりに不可欠であり、今後とも積極的に取り組む。
	うまくいかなかった点	-	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	PDCA手法は、各部門での行政施策や事業の展開、さらには職員の意識向上に役立った。	事業展開が多くの部署に関係するため、事後評価に限らず、事業の初期段階から庁内組織づくりを行い、定期的な事業管理と評価を行い、必要があれば見直すような形態が望ましい。
	うまくいかなかった点	-	
その他	うまくいった点	-	-
	うまくいかなかった点	-	

添付様式6ー参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後活用を予定している地区

なし

・事後評価を予定している地区

平成32年度に、歩いて楽しい・健康まちづくり地区都市再生整備計画の事後評価を実施予定。当地区の事後評価の経験を踏まえ、円滑に事後評価を実施したい。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市ホームページに原案を掲載	平成29年11月6日～11月20日 (2週間)	平成29年11月6日～11月20日 (2週間)	担当課への意見書提出の ほか、電子メール等でも 受付	産業環境部 環境政策課
広報掲載・回覧・個別配布	市広報紙に、市ホームページ及び担当課窓口で原案を公表している旨を掲載	平成29年11月号	平成29年11月6日～11月20日 (2週間)		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	担当課窓口において原案閲覧	平成29年11月6日～11月20日 (2週間)	平成29年11月6日～11月20日 (2週間)		

住民の意見	・なし
-------	-----

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	伊藤光造、白井康晴、太田忠行、川島淳子、寺田進彦、青山哲郎(欠席)	平成30年2月2日	総務部総務課(事務局) 産業環境部 環境政策課	袋井市社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)事後評価実施要綱	袋井市公共事業評価監視委員会
その他の委員	なし				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・指標1について、「事業の前後の状況変化を具体的に示さなければ、適切な回答が得られないのではないか」との質疑があったが、「1年後のフォローアップで実施効果を測ることができるように取り組む」と回答し、委員の理解を得た。 ・「指標1の未達成原因は、みつかわ夢の丘公園や道路等が未完成の状態でアンケートを実施したためと考えられることから、みつかわ夢の丘公園の完成により印象度が変わる」との同意を得ることができた。 ・指標1および2について、「1割程度改善する目標を立てているが、目標が小さくないか」との質疑があったが、「当面の目標として国や県と協議し、設定した」と回答し、委員の理解を得た。 ・指標3について、「自治会や地域でこれだけの人が協力してくれたといった視点での評価の方がインパクトがあるのではないか」との質疑があったが、「指摘事項は定量的に表現できない効果として捉えている」と回答し、委員の理解を得た。 ・「多くの住民や団体が維持管理に関わってきたため、今後も自分達の施設と思ってもらうことが必要である」との意見があった。
	実施過程の評価	・「持続的な体制の構築について、市・自治会・おおや里山の会・花の会のそれぞれの係り方が整理されているのか」との質疑があったが、「市は公園整備や管理、自治会は対策協議会や利活用企画、おおや里山の会は進入路の植樹や草刈り、花の会は管理棟周辺の花の管理等、それぞれの役割を考えている」と回答し、委員の理解を得た。 ・「自治会ができる範囲のことであれば、みつかわ夢の丘公園の維持管理を継続していくことができる」との意見があった。 ・「維持管理の最適な仕組みづくりが必要」との意見があった。
	効果発現要因の整理	・特になし。
	事後評価原案の公表の妥当性	・特になし。
	その他	・特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・「指標1を達成するため、みつかわ夢の丘公園のPRと合せ、案内標識やウォーキングコース、事業が遅れている道路事業等の整備を促進していく必要がある」との意見があった。 ・「案内標識やウォーキングコース整備は、利用者や地域の意見を聴きながら、引き続き整備を継続していく必要がある」との意見があった。 ・「まちづくり協議会の育成等をきっかけに、事業の成果に結びつく行政と地域仕組みづくりができればよい」との意見があった。
	フォローアップ	・特になし。
	その他	・特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他		・特になし。

※1 審議事項の詳細は「評価委員会チェックシート」を参考にしてください。